

国語 第1学年 せつめいする 文しょうを かこう

検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し: 中心はB(1)イの、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って構成を考えること。本時は、しごとと作りの順序に沿ってカードの文を組み立てることに絞っている。合わせて、〔知識及び技能〕(2)アの事柄の順序の理解を評価する。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見るのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第2時の組み立てメモと第5時の発言、思考・判断・表現①は第3時のカードと組み立てメモ、態度①は第1時の発言、第4時の見直し、第5時の振り返りで見る。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: B(2)アの「身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動」に当たる。図鑑で知ったことを、しごとと作りの順に書いて知らせる。自動車を選ぶ時の図鑑の読み方は、読むことのC(2)ウ「学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動」と関連する。

指摘 4: 読むことの「じどう車くらべ」との違いは何か。同じことの繰り返しにならないか。

返し: 「じどう車くらべ」では、書かれている順序を読んで確かめた。この単元では、図鑑から見付けた事柄を、子ども自身がどの順に並べるかを決める。読んで分かった順序を、自分で選んで使うところが違う。指導事項も、読むことのC(1)アから、書くことのB(1)イに変わる。

指摘 5: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 書き出せない子には文の型の用紙を渡し、メモの言葉を入れさせる。図鑑の文が読みにくい子には、先生がしごとと作りの部分を付箋で示す。早く終わった子には、作りをもう一つ足して書かせる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 6: ICTは使わないのか。

返し: 自動車の写真を端末で見て、作りを確かめることができる。書いたカードを撮影して大型画面に映せば、順序とつなぐ言葉を全員で確かめられる。完成したカードを端末でまとめて、学級の図鑑として家の人に見せることもできる。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ紙のカードをとして図鑑にする。

指摘 7: 教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

返し: 手引きは指導事項に沿って作られているので外す理由はない。この指導案は指導事項から組んであり、教材を替えても使える。独自の所は、読む学習で作った表をそのまま組み立てメモに使うことと、メモに①②の番号を付けてから書かせること。

指摘 8: 5時間で一人一枚書けるのか。時間が足りない。

返し: 5時間は光村図書の年間指導計画例の配当に合わせた。足りない時は、第1時の自動車選びを、学校図書館の時間や朝の読書の時間で先に済ませておく。絵をかく作業は生活科や休み時間に回してもよい。第3の1(7)に、低学年は他教科等との関連を積極的に図るとある。配当は年間指導計画に合わせる。

指摘 9: 発問が多すぎないか。

返し: 本時の中心発問は「どれを先に書くと、読む人に分かりやすいか」の一つ。導入の問いは「じどう車くらべ」の順序を思い出すため、ペアの問いは下書きを確かめるためで、どちらも中心発問の答えを確かめる手順。全体にはめあてと中心発問だけを示す。

指摘 10：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容 B書くこと(1)ア・イと(2)ア、〔知識及び技能〕(2)ア、学年の目標(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

